

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

■ つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーク）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。具体的な取組み例として右記イラストにまとめています。

■ キーワード

地域でこぼれ落ちる人

- ・高齢者と家族を取り巻く暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちることを防ぐ支援が必要。
- ・東京の高齢者施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけでなく、地域で暮らす住民の役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- ・地域のニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつく活動を展開。
- ・暮らしの中でのちょっとした困りごとによりそい、地域住民にとって身近な存在として感じてもらう。
- ・広く都民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となつてつなひろキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に参画し、住民とかわり、地域の高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるはたらきかけを行います。かわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の個々の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワークなど）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



■ 東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

① 高齢化の進行

2025年には、高齢者人口が約343万人、高齢化率は26.2%、都民の4人に一人が高齢者になると見込まれています。

② 孤立の増加

65歳以上の一人暮らし世帯について、2010年では約60万世帯であるのが、2025年には約82万世帯に増える見込まれています。

③ 経済的に困窮している高齢者の増加

2010年1年間の所得（全国）について、高齢者世帯の40.5%が年収200万円以下となっています。

④ 多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えています。

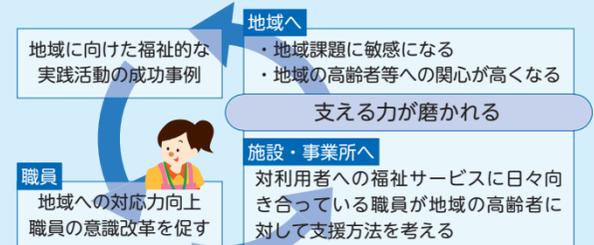


■ 地域によりそうことで生まれる効果



- ・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の2つが連動して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- ・1施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

■ 包括的な視点に基づく施設の福祉的な取組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手としてのあらゆる可能性を引き出します。